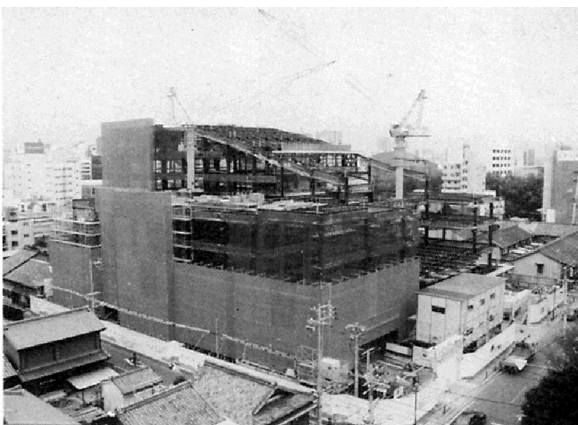


断面パース



鉄骨建方完了 94.12.28

—— 女性総合センター ——

女性総合センターは、「実質的な男女平等社会の実現」を基本目標とする「あいち女性プラン」（平成元年10月策定）の理念を実践する拠点として位置づけられた文化複合施設であり、愛知県庁・名古屋市役所等がある名古屋市の官庁街の東側に現在建設中である。

本建物は鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨梁）、地上5階地下2階、延床面積17,800㎡、軒高GL+31mの建物である。ホール・アトリウムの大空間を南北軸に配し、その両側を耐震壁付ラーメン架構が固める構成としている。またこの南北軸の大スパン部分の屋根を一段高くし、南から北（正面）のアトリウムへ向かって大きく流れる曲面とするなど形態的なシンボル性を高めている。

尚、鉄骨建方は南側から屏風立て式に建ち上げ、平成6年12月に完了している。竣工は平成8年1月の予定。

(株)日建設計 木村 晋一郎

鉄骨造建築物の品質適正化に関するアンケート調査結果

JSCA中部支部技術委員会鉄鋼系部会

1. はじめに

鉄骨造の品質確保に関しては、建設省の働きかけにより各行政で指導が行われている。愛知県でもこの4月から「鉄骨造建築物品質適正化のための建築確認取扱い要項」が施行される。約2年前、名古屋で開催されたある講習会で、「不良鉄骨の原因の多くは設計図の不備である」との指摘がなされた。私達鉄鋼系部会のメンバーは、設計者として自ら調べ、具体的に現状を把握した上で問題解決の提案をすべきだと考え、アンケート調査を行うこととした。

この問題については、愛知県鉄構工業組合も強い関心を持っていたので、組合の協力を得ることにより、愛知県内のJSCA会員所属の事務所、建設会社126社と組合加盟の132社に調査依頼を行い、それぞれ53社、69社から回答を頂いた。アンケートの整理についても組合の協力を得ながら行い、昨年末に報告書としてまとめた。報告書は単純集計とまとめから構成しており、ここではまとめの部分について紹介する。

2. 設計図ーディテールを大切に

設計図の不備の主要なものは、

- ① 建築・構造・設備の不一致
- ② 標準部以外の詳細図不足、2次部材に関する詳細図不足

③ 施工性の考慮不足

が挙げられる。設計者と加工業者の見方でかなり異なるのは「ディテール」に対する評価である。設計者は「ディテール・納まり」に最も留意して設計すると回答しているが、加工者側からはこの点に対する不満が最も多かった。実例として寄せられた溶接困難なディテールの多くは、簡単なスケッチをすれば気がつくケアレスミスであった。

不備の原因は、構造設計者が意匠図・設備図をフォローしきれていないこと、鉄骨製作に関する知識が不足していることである。改善に際しては構造設計の発注システムに起因する種々の困難があるが「今、設計しているものがどのように作られるか」に常に関心を持つことが第一歩である。

3. 鉄骨製作ー適切なコミュニケーションを

鉄骨加工業者が決定すると、設計図にもとづき鉄骨製作が始まる。鉄骨製作に関する設計者と加工業者の意見を対比して表-1に示した。

表の意見からも設計者と加工業者のコミュニケーションが十分に行われるならば、鉄骨の品質はかなり改善されると考えられる。設計者には設計図や打合せを通じて設計意図を加工業者に伝えること、加工業者には設計意図を理解した上で作る立場からの改善提案を望みたい。両者が協議し、納得した上で製作にかかることが大切である。

表-1

	設 計 者	鉄 骨 加 工 業 者
製作前の打合せ	<ul style="list-style-type: none"> ・図面が不明な時は自分の判断でやらずに質疑を出してほしい。 ・製作に閉じ、VEと称し安易な提案をする。 ・難しい納まりも設計図通り製作してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・質疑事項に対する回答を速やかにしてほしい。 ・加工上、工数のかからない様なディテール・設計としてほしい。 ・仕口部、部材等の納まりが良くない個所は設計を変更したり、見直したりする。
工作図および製作要領書	<ul style="list-style-type: none"> ・工作図の提出が遅く、出てきた段階では部材が切断されている場合がある。 ・工作図を外注した場合、自社でチェックしてほしい。 ・製作要領書について、一般的な事以外に特に注意する事、また実際に担当する人（溶接工等）を特定してほしい。 ・製作・検査要領書等の書類だけでは、重要ポイントが掴みにくいので各々の担当者が直接交わる機会が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工作図の承認を速やかにしてほしい。 ・工作図の作成における外注比率は部分的な外注を含めると約2/3程度である。
製作および品質	<ul style="list-style-type: none"> ・製作要領書通り、製作および品質管理をしてほしい。 ・鉄骨加工業者も分業化が進み全体的に鉄骨加工作業を理解できる人が減っていると感じる。同様にゼネコンの現場管理者も鉄骨工事の不勉強が目立つ。 ・鉄骨の製作を外注した場合のチェックを十分に行ってほしい。 ・錆止め塗装の厚みに注意してほしい。（よく塗りむらがある。） ・現場内での製品の養生に無神経な場合がしばしばみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要求する品質の程度を明示してほしい。 ・鉄骨加工の新しい技術、製品を見つめ直し、取り入れてほしい。 ・製品検査時に特に注意する点として、寸法精度・UT検査等があげられており、塗装・材質等に特に注意している割合が低い。

鉄骨の外注製作の比率は、部分外注まで含めるとかなり高い。様々な事情があって外注をなくすことは出来ないと思われるが、元請けの加工業者が責任をもって技術指導・検査を行えば、外注が原因の不良鉄骨はなくなるのではないかと。

4. 検査 — 目的と意義を明確に

検査には現寸検査、仮組検査、製品検査等があるが、これらの諸検査に設計者がどの程度立会っているか、逆に加工業者側がどの程度検査を実施しているかを調べた。延床500㎡以上の建物に関する結果は表-2の通りである。現寸検査の立会い比率が高いが、加工業者はこの時点で基本的な納まりの変更がないことを望んでいる。工作図がCADの場合、現寸検査を省略する場合もあり、工作図段階でのチェックが重要である。愛知県内では、前述の「取扱い要領」の施行により仮組検査、製品検査についても設計者の関心は高まると思われるが、設計者は製品の品質を確保するのに必要な検査項目を明示すべきである。製品検査は、本来発注者であるゼネコンが主体となって行うべきであるが、ゼネコンの担当者の中にも知識不足の人が多く見受けられる。ゼネコンに鉄骨発注者としての意識を喚起

したい。

5. 工事費

バブル崩壊後の調査であったためか、工事費に対する不満は設計者側、加工業者側の双方から出された。(表-3)

加工難易度を反映した適正な工事費が、鉄骨の品質を保つ上でも重要であるという認識を設計者、施工者、加工業者が共有することが必要である。

6. おわりに

阪神大震災の被害例の中には不良鉄骨が原因と見受けられたものも多く、私達は改めて鉄骨品質の重要性を認識した。私達は今後アンケート結果を生かすよう心掛けたいと思う。

最後に、アンケートに協力頂いた皆様にお礼申し上げます。なお、アンケートの収集・整理には以下の委員が担当した。

- 桐山 宏之 (日建設計)、橋村 一彦 (竹中工務店)
- 堀口 精一 (東急建設)、服部 明人 (鹿島)
- 塚田 正紀 (大成建設)、加賀美安男 (日建設計)
- 富田 博明 (伊藤建築設計事務所)

表-2

	設 計 者	鉄 骨 加 工 業 者
現寸検査	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の8割以上の建物で立会う 構造設計者 61% 監理者 66% 意匠設計者 36% 	<ul style="list-style-type: none"> ・検査時(工作図承認を含む)に指摘され是正した事項 納り改善 19% 胴縁・母屋 12% 仕口部の改善 17% 鉄筋孔 10% 梁貫通孔 14% その他
仮組検査	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の8割以上の建物で立会う 構造設計者 37% 監理者 59% 意匠設計者 10% 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料検査の平均検査率 54% ・部材の寸法精度検査の平均検査率 68% ・開先、ルート検査の平均検査率 46% ・仮付検査の平均検査率 51% ・溶接施工中検査の平均検査率 36%
製品検査	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の8割以上の建物で立会う 構造設計者 37% 監理者 72% 意匠設計者 15% 	<ul style="list-style-type: none"> ・社内の外観検査の平均検査率 70% ・社内の寸法精度検査の平均検査率 83% ・社内 UT などの非破壊検査の平均検査率 66%

表-3

	設 計 者	鉄 骨 加 工 業 者
コストに関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ① トンいくらの世界であり、省力化、簡素化が計れない。 ② 鉄骨コストの内訳があいまい。 ③ 鉄骨コストが世情を反映し過ぎており、適正価格が把握できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 重量が多くなっても加工難易度が低ければ、コストダウンになる。 ② 部材種類が多いとコストアップになる。 ③ 工作図の変更、手戻りが多過ぎる。 ④ 品質とコストはリンクする事を設計者、施工者、ファブが認識する必要がある。 ⑤ 現状の鉄骨単価はあまりにも安過ぎる。

大震災直後のJSCA中部新年互礼会

去る1月19日に弥生会館にて恒例の新年互礼会が開催された。折しも阪神淡路大震災の2日後ということもあり、開催自体が危ぶまれたものの、皆様方のお陰をもちまして約102人の御参加を頂き盛況に終えることが出来ました。例年の如く前半は講演会形式で、この度は名工大の久保哲夫教授より下記のタイトルで御講演を賜りました。

講演内容：「最近の米国事情」

—高層建物とノースリッジ地震被害—

まさに運命のいたずらでありましょうか、ノースリッジ地震の発生が丁度一年前であり、皮肉にも予期せぬタイムリーな講演となってしまいました。わが国では、ロサンゼルス近郊のノースリッジ地震については、よそ事といった感が強く大方は今回の阪神のような地震は予想だにしないのではないのでしょうか？久保先生は東大大学院在学中に米カリフォルニア大学パークレイ校地震工学研究所にて一年間研究員として滞在され、その後建設省建築研究所を経て現職につかれています。特にRC建物の耐震性に関するテーマとして、高層RCや強震地震の波形特性等に関心を持っておられるようです。わが中部支部としましては、数年前のロマプリータ地震（サンフランシスコ）の震災報告等でも講演を頂いております。

本報告では、懸垂曲線ケーブルを構造的に採用したミネアポリスの米連邦準備銀行やシカゴの高層RC等の紹介に加え、とりわけ先生が強調されたのは、米国での震災直後におけるボランティア態勢とその重要性といった点かと思われます。この件につきましては、わが恩師でもあります岡田恒男教授（前東大生産技術研究所所長）よりかねてから聞かされていた点でもあります。この度の震災においては、これらの先

生方の米国始め各国での調査経験を踏まえたボランティア活動が取り入れられ、JSCAとしてもそれなりの役割を果たしたように思われます。今後一層わが国の防災体制と併せてこれらの充実が期待されます。後半の懇親会でも、地震のニュースでもちきりといった様子でありました。

最後に阪神淡路地区でなくなられた方々の冥福を祈ると同時に本郷支部長も仰せのように当地区の復興に向けて、JSCA会員諸氏共々我々の使命を果たすべく協力していこうではありませんか。

事業委員会 浅井 敏 司



講演風景



懇談会風景

地球にやさしい電炉厚板

特徴

- 時代の要求に応えた、リサイクル・省エネの製造プロセスを採用しています。
- 建築構造用圧延鋼板(SN規格)は、全種類製造可能です。
- 各製造プロセスの造り込みにより、高靱性・良好な板厚方向特性を確保しております。

あついで未来を創ります



中部鋼板株式会社

〒454 名古屋市中川区小碓通り5丁目1番地
TEL(052)661-3138 FAX(052)654-1425
直通販売部 営業推進室

阪神大震災 JSCA ボランティア活動体験記

(株)丹羽英二建築事務所 深尾章由

芦屋市内で共同住宅の被災調査をしていると、中年の男性が声をかけてきた。「俺の家を見てくれんか」と。個人住宅は他の団体が行なっているからといっても「そんなこと言わんと、ちょっとみてくれ」といわれ、むげに断ることも出来ずその人に案内され調べてみた。家は大きく傾き隣の建物にほとんどよりかかっている状態であった。「そうか、やっぱりダメか」何とも寂しげな、あきらめきれない表情が今でも私の中に鮮明に残っている。今日まで営々と築き上げてきた財産、家庭を一瞬のうちに壊してしまった大地震であった。

1月末、建築物の地震被災度判定を支援するため、建設省の呼びかけに応じて、建築関係団体からなる「兵庫県南部地震被災度判定支援会議」が設置された。JSCAの会員として、第1陣8名が中部支部から参加した。芦屋市内の公営及び民間の共同住宅全てについて、防災協会の調査表に基づき行政庁が「危険」「要注意」「安全（調査済）」の判定をそれぞれ赤、黄、緑のラベルで表示した。我々は特に「要注意」の建物について、後追いの形で、損傷度を目視調査した。おおむね判断は一致していたが、判定基準が確立されていなかった点と、今回初めての試みでもあったため、個人の考え方に多少の相違もみられた。例えば、建物の沈下傾斜は勿論、クラック外壁材の損傷は全くないのに「危険」のラベルが貼ってあった。建物の周囲のブロック塀が倒れかかっているからである。“建物本体には問題ありません”のコメントはあったが、余震がくればブロック塀の倒壊により人命を損なう恐れがあるからである。建物本体に絞って判定をしたほうが入居者にとって分かりやすいかもしれない。また、「要注意」とは何に注意するのか、どこが損傷しているのかなど、活動中にいろいろ相談を受けた。中には、我々が構造実務者と分かると非常に協力的であったし、積極的に質問してくる家主さんもいた。被災者の不安解消に役に立つことが出来たと思っている。しかし3区分の判定は大変難しいことである。完全に倒壊した建物、あるいは誰が見ても無被害の建物であれば明白であるが、殆どの建物が何らかの被害を受けている。建物の内部まで入れない事情もあるが、「要注意」の建物については2段階くらいに分けるか、どこが要注意かを明確にする必要がある。今後、判定基準をマニュアル化し官民を問わず、構造の知識を持った人を対象に「応急危険度判定士」の育成、認定、登録をする必要があり、一般社会へのPRも必要であると感じた。



調査中の会員（芦屋市茶屋之町）



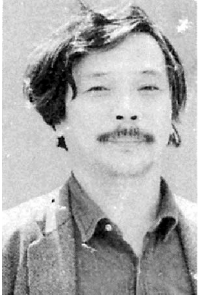
2年前にリニューアルした5階建のアパート
瞬時に1階が倒壊した

又、今回の地震で鉄骨造建築物の被害のうち、調査中特に印象に残ったことを述べたい。外観上何の損傷もなく一見、4階建ての建物に出くわした。残留変形無く外壁ALC板の剥落もないのに、赤ラベルの表示を不思議に思った。ところが1回部分が全く跡形もなく押しつぶされた5階建ての建物であった。荷物を取り出しに来ていたご婦人は「あっ、地震だ」と気付いた瞬間ドーンと上から落ちてきた。天井がやわらかかったので私は助かりましたが、主人は入院し、1階で5人の方が亡くなられました。」と話しておられた。なぜそのような壊れ方をしたのか調べてみると、350×175サイズの軽量H形鋼の1階柱脚が殆ど腐食によって断面が消滅していた。震度3～4程度の地震でも倒壊していたであろう。この建物は2年前にリニューアルしており、入居者は外見上きれいな建物であれば安全であると信じていたに違いない。同一用途の改装工事については行政側は躯体のチェックまで関与しないのであるが、設計担当者、施工業者に良識があったなら、何らかの補強はしたはずである。このような例は多々あると思うが、既存不適格建築物と同様、今後取り組むべき課題と思われる。

建築家から構造家へ

杉山一三建築デザイン研究所 杉山一三

—— 大震災に思う ——



講師 杉山 一三

われわれ建築家は火災、台風、地震など考えられるあらゆる災害に対して生命を守り安心して暮らせる建物を造らなくてはならない。1月17日に起きた関西大震災は文明の進歩の延長線上にあるはずの現代都市というものが、いかに脆弱な基盤の上に成り立っているのかをあらわにし

た。被害状況は様々なマスメディアにより伝えられており、勿論、私達建築家はこうした情報に無関心ではられない。

個人的にも十ヶ月程前に神戸市の北区で小さな住宅の仕事を終えたばかりで、思いもかけず今回の災害に遭遇することになったのだが、幸い我が設計による小住宅はかすり傷も負わず無事であったという報告に胸をなで下ろしたのだが、安否がわかるまで随分心配をした。台風とか火災とかということであれば、ある程度の体験もあるし多少察しもつくのだが大地震というのは体験もないし、連絡も取れなかったのでなおさらである。設計にあたって具体的にこの地震を想定していた訳でわかないから、玄関ホールに大きな吹抜を造り網入りとはいえない大きなガラス面もある。耐力壁線を一致させたり、筋違いは安心料だと規定より3、4割多めにいれてはあったもののやはり心配で、人ごとではなかったのである。

今回の震災のことがもっと知りたくて神戸に出かけたのは阪神電鉄が青木まで回復してからである。現地の状況はいろいろのマスコミを通して伝えられており、専門家による現地調査報告も数多くなされている。だが実際この眼で見た光景はテレビ映像とは大きく違っている。ここには見慣れてオーバーラップするはずの三宮の風景は無く、あったのはまるで巨大な映画のセットの中にいるかのような、信じられない程破壊された白日夢のような光景である。そしてそれは単に視覚的にではなく、臭いと埃を伴って目の前に拡がっていた。そして倒壊した住宅、ビルの周辺には必ず数人の人がいた。人々は家に住むと同時に土地にも住んでいる。瓦礫の下の土地、道具はこのような事態でも守らねばならぬ財産なのであり、生活の場なのである。

今建築家はこの震災に対するコメントを社会的にも個人的にも用意しなくてはならない。構造家であればなお更である。耐震基準とか構造理論は今後専門家にまかせるにしても、今具体的にどう対応してゆくかということを考えなくてはならないのである。ここでは私なりに地震に対して感じたことを

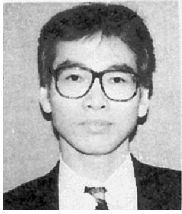
少し述べてみたい。

今回の震災では新耐震以降の建物の被害が極めて少なかったと言われているが、これは基準法の耐震基準の有効性がある程度実証されたということであろうか。これまでの耐震基準は関東大震災をもとにして造られていて200ガルぐらいだろうということだが、今回は800ガルぐらいで4倍近くの力が加わったので、もたなくて当たり前という説もあるのだけれども、経済性の問題があるからといって今回の地震のたった1/4程度の力への対応しか考慮していなかったとしたら、おかしなことであるし、無事だった多くの建物がまさか4倍以上の力を想定していたはずもないし、耐震基準が完全であると思っていたわけでないが、もう少し納得できるような説明が欲しいと思うのである。また、地震対策用構造設計がマニュアル化され、施工がマニュアル化されようと、建物を造るのは人間であり、判断を下すのも人間だということを忘れてはいけないということである。

また、建物は時間と共に老朽化し初期の強度をいつまでも保つことは難しい。だが、今回の住宅の被害の大多数が、殆ど寿命を終えたと思われるような木造の老朽化住宅であったことを考えるとき、寿命のきた建物は自然と朽ち果ててゆくというより、このような災害に遭遇した時大惨事を引き起こす恐れがあるということである。

耐震基準とは守るべき最低基準である。安全性を高めようとすれば金がかかる。だからこの基準値が最高基準のようになる。基本的には自分達の安全性を確保するためにはどう選択すればよいかという自主的な選択があって良いと思うのだが、どこをどうすればどう安全になるかがなかなか見えないのと、他力的な体質が問題なのではないだろうか。

また、近代建築の歴史は壁に囲われた暗い堅苦しい空間から離れて、明るい解放的な空間を獲得してゆく歴史であった。そしてそれは時代のイメージの反映でもあった。コルビジェ、ミースといった多くの巨匠達により、鉄筋コンクリート、鉄骨のラーメン構造によりそれは可能になり、デザインを決定づけ、建築は大きな進歩をとげたと言われている。日本においてもラーメン構造は柱、梁を主体とした伝統的デザインとマッチし易しく、主流になっている。今度の震災でその有効性が実証された壁式構造、壁による建築デザインが行われるようになったのはつい最近のことである。建築デザインと安全性は一致すべきものであり、建築のデザインは様々な機能を満たすものとして、構造、設備と深く係り合っている。安全性を高めるということはただ単に金をかけてごつくするということではなくて、より合理性のある構造形態の中に美しさを発見してゆく中で行われてゆくべきではないだろうか。



私の好きな建物

(株)飯島建築事務所

飯島 俊比古



最近、絵を見るのが楽しくなりました。教育テレビ日曜午前9時から（再放送は午後8時から）日曜美術館という番組があります。私にとりまして当り外れがあるのですが、そこで知ったことにフェルメールとラファエロ前派があります。本屋さんに行きますと、ラファエロ前派に関する本は結構並んでいます。また、知識がありませんので、ここではフェルメールの絵についての話にさせていただきます。

日曜美術館で絵を見て以来、本物を一度見たいという思い

にかられました。「デルフトの眺望」と題された絵があります。この絵はデンハーグのマウリッツハウスに展示されています。風景画なのですが、単純に、見える風景を絵にしたものではなく、事実に基づいて一部脚色されているといった感じで、風景は最構成されている（と本に書いてある）。デルフトにも行って来ました。デルフトはデルフト焼き（日本の染付けに似ている）でも有名ですし、デルフト大学もあります。それはそれは美しい街で感動しました。ゴッホの絵にある様な「はね橋」もあって、ボートが来ると実際に橋をはね上げるのです。またその時はお祭りだったのか街の中心にある大きな教会のテラスからロープをたらし、上から降りてくるのを楽しんでいて、それも楽しい雰囲気を作っていました。

フェルメールは、レンブラントと同時代のオランダの画家で、デルフトで生まれ育ったそうです。街の一場面を切り取った絵もあります。街は建物で構成されますが、美しい建物を並べれば美しい街並みが必ずしも出来る訳では無いのは当然です。フェルメールはデルフトの街が更に美しくある様に建物の配置を変更し、大きさも変えて描いています。

「奇跡の器」（千葉成夫著 五柳書院）によれば、フェルメールの絵を好きになった人はフェルメールの絵を訪ね、世界巡礼の旅に出掛けるそうです。

直接的な意味での好きな建築という訳ではないのですが、機能としての美術館、博物館に非常な魅力を感じています。



私の好きな建物

—東大寺大仏殿—

日建設計

齋藤 幸雄



「東大寺は聖武天皇の発願により西暦749年に創建されました。その中心である大仏殿（金堂）は世界最大の木造建築としてよく知られています。」これは観光バスのガイドさんの説明の一部ですが、私が最初に訪れたのは小学校2年の時、そして本格的（？）に訪れるようになったのは中学に入ってからで、現在まで数百回に及びます。通っていた中学が東大寺の境内にあった事がきっかけですが、大学時代には大仏殿の耐震性について研究した事もあり、その魅力に増々取り付

かれていったのです。以来、構造設計者として常に技術的にこの建物を超える建物を作りたいというのが私の夢でした。高さだけは超えたものの、いまだ実現できずこのまま終わりそうです。

創建以来2度の火災により焼失し、現在のものは3代目で当初の半分ぐらいのスケールですが、それでも何度見てもその壮大さには感動を覚えます。

東大寺にはかつて強い地震にあった事が記録に残っていますが、大仏殿はほとんど被害を受けていません。充分耐震性がある（と私は思っていますが）この建物をどのような人物が設計し、建設したのか？

どのように部材の大きさを決定し、架構方法を考えたのか。ここではただ大きいだけでなく、大仏様をすっぽり納める為の大空間を作るという課題が立ちはだかり、この為に様々な工夫がされています。又、当時タワークレーンがあるはずもなく、建方は大変な事であったと思います。

しかし、それらの困難を克服し、完成させたその能力、バイタリティは素晴らしいもので、我々の先輩たちが成し遂げた事を誇りに思います。

会員紹介

会員のみなさま PR のページです。

どしどし御応募下さい。

連絡先：鹿島 佐々木

TEL(052)972-0912

私の趣味はラグビー。

9人で組むスクラムは1人だけ力があっても相手には勝てない。連携プレーの勝負である。建築設計と同じで意匠・構造・電気そして設備とこれらの連携が一致して初めて良い建築物になると思う。私も構造ばかりではなくそれ以外の物ももっと勉強し、その上でもう一度構造を見詰め直したいと思う。

(株)加藤建築設計事務所

加藤 嘉成



意匠デザインは大好きで、構造も面白いと平行して10年間設計業務をしていましたが、独立を機に構造一本と決め9年目を迎えます。勉強したい事が沢山あり過ぎてどれも中途半端になりそうですが寝る前には必ず本を読もうと思っています。酒は飲みません。ギャンブルは嫌い。2番目に好きなのは仕事です。

小川建築事務所

小川 喜久男



入社して29年。社命により構造をやれといわれいつのまにか構造屋になっていました。当社は鉄骨構造が主流で、工場製作部門へ約7年間配置換えとなり、その経験が非常に役立ち現在の私があるものと思います。現実の理想との違いに翻弄され、毎日を過ごしています。

大和ハウス工業(株) 名古屋支社

東 哲夫



最近、構造設計から遠ざかり、構造のプログラム開発に携わっています。

最近の建物形状の多様化に伴い、プログラムに要求される機能も増え、機能アップに追われていますが、常に設計者の立場でプログラムを作りたいと思っています。

(株)構造システム 名古屋支社

加藤 准一



昨年1月に独立し、三重県員弁郡という片田舎で細々と構造設計に携わっています。地方で構造設計に従事している為、情報収集が難しく苦勞しています。幸いにも JSCA の設計法部会に参加させていただいていますので、この会を通じて自己啓発に心掛けています。

(株)仁設計室

門脇 哲也



計算尺で育った世代ですから、やはり昨今の電算機の進歩には驚いています。構造技術者という仕事も結構孤独な面がありますが、好きな映画を観る事や小説等を読む事で気分転換をはかる様にしています。学生時代に登った北アルプスの山々をいつの日にか又、登る事が出来る様と思っています。

(株)大建設 名古屋事務所

加藤 公平



入社して早10年、名古屋に赴任してからは3年半、経験だけは増えてきましたが、仕事の中身はまだまだ反省することばかりです。昼は仕事で悩まされ、夜は子供の泣き声に悩まされる今日この頃です。

大成建設(株) 名古屋支店

小田切 智明



私が建築構造を始めた動機は生まれ育ち又現在も住んでいる地域が多雪地域で、小さい頃から冬になると屋根といわず路上といわずそこら中皆で雪掻きをするのが日課でした。そこで屋根の雪荷重に耐え得る建物が多くなれば少しは楽になり、住み良くなるはずと信じていたからです。でも現在は暖冬が続いて複雑な心境です。

龍北建築事務所

大塚 博政



改良された地盤の掘り起こし状況

テノコラム工法

会員の皆様、阪神大震災調査速報(写真集)
御希望の方は御連絡下さい。

株式会社 テノックス

名古屋：〒455 名古屋市港区千年3-1-28 (センコーセンター内)

電話 052(651)5123 ファックス 052(652)0288